

## 西原のカタツムリ

今回は、現在行われている自然調査の中から、貝調査のお話をひとつ。

みなさんは、貝つまりカタツムリというところどんな種類を思い浮かべますか？

町内でもわずかに自然が残る史跡や緑地帯では、約二〇数種の貝がみられます。外来種のアフリカマイマイはどこに行っても見かけるのですが、貝のいる場所は種類によって違いがあります。

たとえば、木の葉の上には、三角形で背高い殻のオキナワヤマトカマイマイや、生きている間は黄緑色の美しい殻をもつアオミオカタニシなどがいます。

オキナワヤマトカマイマイは、大きくて高いところにいるので、鳥たちにねらわれやすいようです。イシグスクの岩場では、ヤマタカマイマイの割れた貝殻が散在していました。おそらく、鳥たちが貝を岩にくっつけて殻を割り、身を食べたのでしょう。

また、地表では、よ



オキナワヤマトカマイマイ（棚原グスク）

く見られるシュリマイマイ、オキナワヤマトカマイマイや、二〜三ミリの大きさのため、めったに見つけれないリュウキュウゴマガイなどがすんでいます。

棚原グスクの岩の間には、殻に毛の生えたシュリケマイマイがたくさんいました。

このほかにも住宅地付近の低木にはオキナワウスカワマイマイやパンダマイマイといった種類がいますし、水の中にも貝はすんでいます。

今後はそのひとつひとつを紹介できたら、と思います。

みなさんの身近にも、案外いろんな種類の貝がすんでいるかも。よく目をこらしてみたいかがでしょうか？